



県民の切実な願いを受け止めて!!

9/7に140項目の要求をもって県と交渉

国民要求実現和歌山県大運動実行委員会は、7/7に県庁で140項目の県民要求で対県交渉を行ないました。100人をこえる参加者が要求を提出した担当課と交渉を行い、医療生協・民医連からは職員13人が県民のいのちと健康を守る要求で県福祉保健部との交渉に参加しました。

医療・健康に関する要求では、後期高齢者医療制度の廃止を国に働きかけること、保険料の負担軽減など制度上の問題点について改善を求めました。また、医師・看護師増員のための施策や高すぎる国保料や介護保険料の引き下げなどを要求しました。県は、「財政が厳しい」との答弁を繰り返すのみでした。

生協病院からはじめて参加した病棟の看護師さんは、「県民の切実な思いが伝わってきました。どなたかが言われていた通り、現場で起こっていることを知らない、デスクワークでは分からないことがたくさんあることを行政に伝わったのか疑問です。」「もっと学習して行政についてしておかないと患者様と深く関われないと思いました。」などの感想がよせられました。



ただちに後期高齢者医療制度の廃止を!!

昼休みデモと不服審査請求

県社会保障推進協議会や年金者組合は、9月9日、「後期高齢者医療制度」の廃止を求める昼休みデモを市役所から県庁まで、「命を差別する後期高齢者医療制度はただちに廃止せよ」「新政権は公約をまもって後期高齢者医療制度をただちに廃止を」など唱和して、市民にアピールしました。

このデモ行進に医療生協



の組合員さんも多数参加しました。職員は19人参加しました。その後、県に後期高齢者医療制度の不服審査請求と制度廃止を求める要請書を提出しました。不服審査請求は県下各地から67人分を提出しました。医療生協から19人が請求し、「年寄りを差別するような医療はすぐやめてほしい。」「保険料が昨年より倍になり、高く払えない。」など、切実な意見をのべ、担当者に申請書を手渡しました。

生活再建ネットワーク

炊き出し、健康チェックもあるよ

第2回 生きるためのなんでも相談村

今年3月20日に初めて開催した「相談村」では、野宿を余儀なくされていた方も含めて、23人が生活保護の申請を行いました。当日は、和歌山市役所の特別のはからいで、休日にもかかわらず生活保護申請をすべて受理していただくなど、まさに命をつないだ相談村となりました。あれから半年、社会・経済情勢はますます厳しくなっており、実行委員会事務局によせられる相談内容もさらに深刻化しています。働くルール、借金の整理、生活保護申請、医療・介護・年金・健康、子育て、進学援助、DV、法律相談など、専門家が相談に応じます。「一人で悩まず、まず相談」。当日は炊き出しもあります。どうぞお気軽にお越し下さい。

開催日/2009年9月21日(敬老の日)
時間/午前10時~午後3時
会場/和歌山城・西の丸広場

参加無料、相談無料。お気軽にお越し下さい。
◆プライバシーは最大配慮いたします◆

- ① なんでも相談 相談内容に即した専門家が対応します。
- ② 炊き出し 今回は「カレーライス」を用意します

※ 家にねまっているもの、ありませんか?
例) 毛布、寝袋、軍手、Tシャツ、トレーナー、Gパン、下着、靴下、ジャージなど(衣類は男のものに限る)

※ 活動を支えるカンパもお願いします
郵便振替 00930-5-287818
加入者名 生きるための「なんでも相談村」

※ 当日のボランティアも募集中! 詳しくは事務局まで

生きるための「なんでも相談村」実行委員会 (2009年7月29日現在)

NPO和歌山ホームレス支援機構 和歌山クレジット・サラ金問題対策協議会
クレジット・サラ金被害をなくす会「あごみの会」 社会福祉法人一寿会 和歌山県生活と健康を守る会
和歌山県民主医療機関連合会 和歌山県教職員組合 和歌山県高等学校教職員組合 和歌山県商工団体連合会
新日本婦人の会和歌山県支部 民主青年同盟和歌山県委員会 和歌山県地方労働組合評議会
近畿労働連和歌山地区統括部 和歌山県農林義勇団体連合会 働くものつなぐつなぐ健康を守る和歌山県センター

問い合わせ先 生きるための「なんでも相談村」実行委員会事務局 (和歌山県地評 内)
和歌山市藤通丁南1-1-3 名越ビル2階 TEL073-436-3520 (e-mail) w.chibyo@maxnet.or.jp

和歌山県知事
仁坂 吉伸 殿

2009年9月9日

和歌山県社会保障推進協議会
代表幹事 松橋 利理
代表幹事 井戸 茂樹
代表幹事 大森米三郎
代表幹事 武内 正次
代表幹事 中 玲子

後期高齢者医療制度の廃止を求める要請書

謹啓

初秋の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

一昔前までは70歳になったら病院にかかった時の窓口負担は無料になる、誕生日が来るのを待ちかねたという時代でした。和歌山県は67歳から無料でした。長寿を社会全体が祝う文化が日本にはありませんでしたが、後期高齢者医療制度はそれをぶち壊し、高齢者の尊厳を著しく踏みにじりました。

昨年1万人もの人々が不服審査請求を行い、この制度への怒りを露わにしました。和歌山県でも86名の方々が不服審査請求を行い、口頭陳述で「人生の暮引きを迫るひどい制度だ」「家族を引き裂かれた思い」「はよ死によしよと言うのか」と屈辱的な仕打ちを恨む思いを語りました。政府が、いずれ避けられない死を迎えるから高齢者にはお金を使うなという考え方である限り、高齢者の安心と希望は得られません。小手先の見直しでは取り繕うことはできません。今年も多くの高齢者が不服審査請求を行うこととなります。

先日の総選挙結果は、後期高齢者医療制度を実行してきた自公政権が敗北し、制度廃止を掲げた民主党が多数を占める結果となりました。貴職におかれては、新政権が選挙結果に示された民意を受け止めて後期高齢者医療制度をすみやかに廃止するよう、強く働きかけられるよう要請します。

謹白

記

一、後期高齢者医療制度を廃止するよう国に対して働きかけられたい。

以上